

第1学年算数科学習指導案

日 時 令和7年 11月 27日(木)

第5校時 13:30～14:15

対 象 第1学年2組 31名

授業者 久保 剛志

会 場 1階 1年2組 教室

1 単元名 くりさがりのあるひきざん (6/10時間)

2 単元の目標

11～18から1位数をひく繰り下がりのある減法計算の仕方を理解し、計算の仕方を操作や図を用いて考える力を養うとともに、計算の仕方を操作や図を用いて考えた過程を振り返り、そのよさを感じ、今後の学習や日常生活に活用しようとする態度を養う。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 11～18から1位数をひく繰り下がりのある減法計算が、「10といくつ」という数の見方を基にしてできていることを理解し、その計算が確実にできる。	① 数の構成に着目し、11～18から1位数をひく繰り下がりのある減法計算の仕方を、操作や図を用いて考え、表現している。	① 11～18から1位数をひく繰り下がりのある減法計算の仕方について、「10といくつ」という数の見方や操作、図などを用いて考えた過程や結果を振り返り、そのよさや楽しさを感じながら学ぼうとしている。

4 単元について

(1) 学習指導要領上の位置付け

本単元は、以下のとおり学習指導要領の第1学年の内容A(2)加法、減法に基づく

第1学年

A数と計算

(1) 数の構成と表し方に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるように指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(エ) 一つの数をほかの数の和や差としてみるなど、ほかの数と関連付けてみること。

(2) 加法及び減法に関わる数学的活動を通して、次の事項を身に付けることができるように指導する。

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 加法及び減法の意味について理解し、それらが用いられる場合について知ること。

(イ) 加法及び減法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすること

(ウ) 1位数と1位数との加法及びその逆の減法の計算が確実にできること。

(エ) 簡単な場合について、2位数などについても加法及び減法ができることを知ること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 数量の関係に着目し、計算の意味や計算の仕方を考えたり、日常生活に生かしたりすること。

(2) 教材観

第1単元「なかまづくりとかず」では、10の合成・分解について、第4単元「のこりはいくつ ちがいはいくつ」では、減法が用いられる場合やその意味について学習してきた。第7単元「10よりおおいとかず」では、十いくつの構成を「10といくつ」ととらえることによって、 $15-5$ 、 $15-3$ などの減法計算ができるようになっている。また第11単元「たしざん」では、既習の見方を活用し、未習の計算の仕方を考えることをした。

本単元では、「10といくつ」という数の見方に着目し、11～18から1位数をひく繰り下がりのある減法計算の仕方を考え、理解し、計算することができる力を育成する。第11単元の学習で身につけた、未習の計算の仕方について、数の見方を工夫して既習の計算に帰着して解決する力を伸長させていく。

本単元の学習でも、第11単元同様に、ブロックや図などを用いて計算の仕方を説明する活動を取り入れるようにする。ブロックを操作したり、図を描いたりしながら説明することで、問題解決の過程を共有することができる。また、ブロックの操作と図を関連付けることで、操作をしなくても数の操作をイメージして計算することができるようになる。

5 児童について

目指す児童像（低学年）

自分の思いや考えを大切にしながら、他者と関わって楽しく学ぶ子

(1) 児童観

本学級の児童は、算数科の学習に興味関心をもって意欲的に取り組む児童が多い。授業中の発言においても活発に挙手して発言している。学習に集中して取り組める児童が多いが、集中力が持続せず指示が聞けなかったり手が止まったりする児童もあり、声かけや個別の支援をしながら学習に集中させている。また、ペアでの交流時に自分の考えを伝えることを苦手としている児童もいるので、選択肢から自分の考えに合うものを選んで伝えることに取り組んできた。また、算数科に限らず、各教科でもペアでの交流や歩き回って友達に自分の考えを伝える活動を重ねてきている。

7月に行った10までの加減法のレディネステスト（どちらも45問ずつ）によると、加法は95%以上正答している児童が97%であるのに対し、減法は84%となっており、加法に比べて減法を苦手としていることが分かった。なお、加法の約1/3に対して減法は約2/3の児童が手を使って計算している現状である。

(2) 目指す児童の姿

(1)の実態により、繰り下がりのある減法計算の仕方を、操作や図を用いて考え、表現する活動を通して、自分の思いや考えを大切にしながら、他者と関わって楽しく学ぶことができる児童を目指す。

6 研究主題に迫るための手だて

個人間差異	想定される課題	本単元で行う手だて
到達度の違い	- 減数を被減数の1桁にあわせて適切に分解できない。 - 繰り上がりのないたし算、引き算ができない。 - 減法の方法が「数えひき」しか思い浮かばない。	- 十いくつを「10 といくつ」とみて、10 から減数をひく良さを再確認させる。(第7単元：十いくつの構成) - 繰り下がりのある減法計算で、減数を分解する方法(減々法)があることを理解させる。 13－9のように減数が10に近い数の場合は、減加法が適用しやすく、12－3のように減数が小さくかつ被減数の一の位の数に近い場合は減々法が適用しやすいことに気付かせる。(ただし児童の数の認識の違いにより差異がでる)
考えを表現する力の違い	- 自分の考えを表現できない。 - 自分が何を使って説明するのか決定できない。 - 伝え合うスキルに個人差がある。 - ブロック操作が出来ない、未熟である。	- 教師がさくらんぼで計算の仕方を説明する方法を示す。 - ブロック操作をしながら説明させる。 - 計算の仕方カード(ヒントカード)をもとに、減法の仕方を説明させる。 - 教師の支援を受けながら、説明させる。 (例：教師が児童の反応を見て、代理で話す) - 言葉で伝え合うことが難しい児童には、計算の仕方カードを指で示させたり、教師とともに説明させたりする。 - 計算の順序に沿ってブロックを動かせるよう、用紙に動かし方を印刷したものを準備する。ブロックの動かし方が分からなかったり、自信がなくても動かし方の型に沿ってブロックを置いたり、動かしたり、合わせたりさせる。

7 単元の指導計画と評価計画(10時間扱い) [: 個別最適な学び : 協働的な学び]

時	◇目標 ○主な活動	手だて ◆指導上の留意点	【評価規準】 〈評価方法〉
1	○「のこりはいくつ」を求める場면을提示して、減法であることを考え立式する。既習の減法計算を振り返る。	既習事項の確認	

	◇11～18 から1位数をひく繰り下がりのある減法計算で、被減数を分解して計算する方法(減加法)を理解する。 ○「のこりはいくつ」を求める場面を提示して、減法であることを考え立式する。既習の減法計算を振り返る。 ○場面を読み取り立式する。 ○13－9が未習の計算であることに気付く。	導入の工夫 ◆1桁同士では引けないことを確認する。	【思・判・表】① 〈ノート〉 【態度】①〈観察〉
2 	◇11～19 から1位数をひく繰り下がりのある減法計算で、被減数を分解して計算する方法(減加法)を理解する。 ○13－9の計算の仕方を考える。 ○操作や図を用いて、13－9の計算の仕方を説明する。 ○減加法による計算方法をまとめる。 ○減加法の方法で12－9の計算をする。	交流 ◆考える際の手だてを全体で共有する。(図、言葉、式、記号など) ◆話型に沿って発表する。 ◆様々な考えの過程を比較し、自分の考えがどれに近いかを明確にする。 学びの個別化・個性化 ブロックで さくらんぼで 言葉で 図で	【知・技】① 〈ノート〉 【思・判・表】① 〈振り返り〉
3  	◇前時までの学習を踏まえ、11～18 から1位数をひく繰り下がりのある減法計算で、被減数を分解して計算する方法(減加法)の理解を確実にする。 ○減数が8や7の場合の計算の仕方を考える。 ○操作や図を用いて14－8の計算の仕方を説明する。 ○10のまとまりから1位数をひくとよいということについてまとめる。	既習の活用 交流 半具体物の操作 ◆考える際の手だてを全体で共有する。(図、言葉、式、記号など) ◆話型に沿って発表する。 ◆様々な考えの過程を比較し、自分の考えがどれに近いかを明確にする。 学びの個別化・個性化 ブロックで さくらんぼで 言葉で 図で	【知・技】① 〈ノート〉 【思・判・表】① 〈ノート・振り返り〉

4	◇前時までの学習を踏まえ、11～18 から1位数をひく繰り下がりのある減法計算で、被減数を分解して計算する方法(減加法)の理解を確実にする。 ○「求差」の場合の文章題を解決する。 ○減数が9～5の場合の計算練習に取り組む。	既習の活用 ◆文章から分かることを確認し、聞かれていることを明確にしたりして正しく立式し、計算する。	【知・技】① 〈ノート〉 【思・判・表】① 〈ノート・振り返り〉
5	◇11～18 から1位数をひく繰り下がりのある減法計算で、減数を分解して計算する方法(減々法)があることを知り、計算の仕方について理解を深める。 ○場面を読み取り立式する。 ○操作や図を用いて $12-3$ の計算の仕方を考えて、説明する。 ○減数を分解して計算してもよいことを確認し、減々法による計算方法についてまとめる。	導入の工夫 交流 半具体物操作 ◆考える際の手だてを全体で共有する。(図、言葉、式、記号など) ◆話型を確認する。 ◆様々な考えの過程を比較し、自分の考えがどれに近いかを明確にする。 学びの個別化・個性化 ブロックで さくらんぼで 言葉で 図で	【知・技】① 〈ノート〉 【思・判・表】① 〈ノート・振り返り〉
6 (本時)	◇11～18 から1位数をひく繰り下がりのある減法計算で、被減数を分解して計算する方法(減加法)と減数を分解して計算する方法(減々法)があることを知り、計算の仕方を表現することができる。 ○場面を読み取り立式する ○操作や図を用いて $16-7$ の計算の仕方を考え、説明する。 ○自分が計算しやすい方法で考えてよいことを確認する。	導入の工夫 交流 既習の活用 ◆考える際の手だてを全体で共有する。(図、言葉、式、記号など) ◆話型を確認する。 ◆様々な考えの過程を比較し、自分の考えがどれに近いかを明確にする。 ◆つまづいている児童に計算の仕方カード(ヒントカード)を配る。 学びの個別化・個性化 ブロックで さくらんぼで 言葉で 図で	【知・技】① 〈ノート〉 【思・判・表】① 〈ノート・振り返り〉

7	◇11～18 から1位数をひく繰り下がりのある減法計算で、被減数を分解して計算する方法（減加法）と減数を分解して計算する方法（減々法）があることを知り、計算の仕方を表現することができる。 ○前時の振り返りをする。 ○計算練習に取り組む。	既習の活用 個別の課題 ◆減法には2つのやり方があることを思い出す。	前時同様
8 ・ 9	◇減法の計算能力を伸ばす。 ○計算カードを用いたいろいろな活動を通して、11～18 から1位数をひく繰り下がりのある減法計算の練習をする。 ○答えが9になるカードを集めたり、同じ答えのカードを並べたりして、数の並び方の規則性を見出し、数の関数的な見方にふれる。	学習グループ ゲーム化 ◆ペアやグループで取り組みませ、考えを交流する。	【思・判・表】① 〈ノート・振り返り〉 【態度】① 〈振り返り〉
10	◇学習内容の定着を確認する。 ○16－9の計算の仕方を確認する。 ○答えが7になる引き算の式をグループで話し合い考える。 ○計算問題に取り組む。	学習グループ 交流 ◆ブロックを動かしたり式を描いたりしながら説明し、グループ毎に発表する。	【知・技】① 〈ノート〉 【思・判・表】① 〈ノート・振り返り〉

8 本時（全10時間中の第6時）

（1）本時の目標

11～18 から1位数をひく繰り下がりのある減法計算で、被減数を分解して計算する方法（減加法）と減数を分解して計算する方法（減々法）があることを知り、計算の仕方を表現することができる。

（2）本時の展開 [: 個別最適な学び : 協働的な学び]

学習形態	○学習内容・学習活動	◆指導上の留意点、配慮事項 【評価規準】〈評価方法〉 手だて
導入 5分	○課題をつかむ。 ぎょうざが16こあります。はしもとせんせいに7こあげると、のこりはなんこでしょうか。 ○問題場面をとらえ、立式し、課題をとらえる。 T:どんな式になりますか。 S:16－7です。 T:先生がやってみるね。16このぎょうざから7こあげると…	◆分かっていること、聞かれていることに線を引き、全体で確認することで、立式しやすいようにする。 ◆あえて数え引きをして児童の反応を引き出す。 導入の工夫

	S: 1 こずつひくんじゃないよ。 S: まず 10 から 7 をひくんだよ。	
展開 25 分 	○学習のめあてを確認する。 16－7 のけいさんのしかたをかんがえよう。 ○学習の見通しをもつ。 T: 何を使って考えますか。 S: ブロック、図、さくらんぼ、言葉 ○16－7 の計算の仕方を考える。 T: 計算の仕方を考えて、ノートにまとめましょう。 自分で考えることが難しかったら、ヒントカードを選びに来ましょう。 1、ブロックの動かし方 2、計算の仕方カード ○ペアで計算の仕方を伝え合う。 S: ブロックで（減加法）を考えました。16 を 10 と 6 に分けて、10 から 7 を引きました。3 と 6 を合わせて答えは 9 です。 S: 図で（減々法）を考えました。7 を 6 と 1 に分けて、6 を引きました。10 から残りの 1 を引いて答えは 9 です。	・考える際の手だてを全体で共有し、自分に合った方法を選べるようにする。 ・つまずいている児童に計算の仕方カード（ヒントカード）を取りに来よう伝える。 ・画用紙にブロックの動かし方（ヒントカード）を印刷し、計算の順序にそって、ブロックを置いたり、動かしたり、合わせたりする。 ・全体交流の準備として、早くできた児童の考えをホワイトボードに書かせておく。また、それを掲示し、つまずいている児童には参考にして書いても良いことを伝える。 ・早くできた児童には、他の計算の仕方とも比べて考えるよう促し、より伝わりやすいよう表現を工夫するよう伝える。 交流 既習の活用 ◆ブロック操作をしたり、図や式を見せたりしながら説明させる。 ◆自分の考えと比べながら聞かせる。 ◆自分の言葉で表現することが難しい児童には、計算の仕方カード（ヒントカード）に沿って説明させる。
終末 15 分 	○全体で計算の仕方を交流する。 ○学習のまとめをする。 16－7 のけいさんはひくたすざん、ひくひくざんのどちらでもできる。 ○本時の振り返りをする。	◆減加法と減々法の両方を取り上げ、自分が計算しやすい方法で考えてよいことを確認する。 【思・判・表】 11～18 から 1 位数をひく繰り下がりのある減法計算で、被減数を分解して計算する方法（減

		加法)と減数を分解して計算する方法(減々法)があることを知り、計算の仕方を表現している。〈発言・ノート〉 ◆どちらの仕方でもできることをおさえる。 ◆児童の言葉でまとめるようにする。 ◆振り返りカードで振り返りをする。 ◆友達の発表を聞いた感想を問い、ほかの仕方の良さを感じさせる。
--	--	---

(3) 本時の評価

評価規準	
11～18 から1位数をひく繰り下がりのある減法計算で、被減数を分解して計算する方法(減加法)と減数を分解して計算する方法(減々法)があることを知り、計算の仕方を表現することができる。【思考・判断・表現】	
本時で想定される児童の具体的な姿	具体的な支援方法
「十分満足できる」 数の構成に着目し、11～18 から1位数をひく繰り下がりのある減法計算の仕方を、操作や図、言葉で工夫して表現することができる。	・他の計算の仕方とも比べて考えるよう促し、より伝わりやすい説明ができるよう表現を工夫させる。
「おおむね満足できる」 数の構成に着目し、11～18 から1位数をひく繰り下がりのある減法計算の仕方を、操作や図を用いて表現することができる。	・考える際の手だてを全体で共有し、自分に合った方法を選べるようにする。(図、言葉、記号、さくらんぼなど)
「努力を要する」 数の構成に着目し、11～18 から1位数をひく繰り下がりのある減法計算の仕方を、教師の支援をもとに操作や図を用いて考えることができる。	・計算の仕方のヒントカードを配る。 ・画用紙にブロックの動かし方(ヒントカード)を印刷し、計算の順序にそって、ブロックを置いたり、動かしたり、合わせたりさせる。 ・ホワイトボードに書いた児童の考えを掲示し、参考にして書けるようにする。

(4) 板書計画

11 がつ 27 にち すいようび ぎょうざが 16 こあります。はしもとせんせいに 7 こあげると、のこりはなんこでしょうか。	ブロック	さくらんぼ		ひくたす
しき 16－7 こたえ こ 16－7 のけいさんのしかたをかんがえよう。	図	言葉		ひくひく
・ブロック ・さくらんぼ ・ず ・ことば	16－7 のけいさんはひくたすさん、ひくひくさんのどちらでもできる。			